

羽根研究会見学記

氣賀康夫

用事があって名古屋を訪ねる予定を立てたところ、翌日がたまたま羽根泰正先生の催す研究会の日に当たることがわかり、先生のお許しを得て、1月23日に研究会を見学させていただくことにしました。ご案内くださる中野寛也九段と昼食をご一緒し、泰正先生のお宅に到着したのが午後1時直前で、1時から研究会が始まりました。参加者はプロ棋士と院



生などプロを目指す若手の方々に、この日



は参加者14名でした。研究会の内容は参加者同士の対局が一局、対局時計は使っていませんが、終局は5時くらいになるようです。私は帰りの新幹線の関係で3時に失礼したのですが、まだ、全局これから中盤というところでした。本当は夜までお付き合いすると打たれた碁の検討、泰正先生の講評が見られたのですが、時間の関係でそれは次回の楽しみということにいたしました。

泰正先生の関係するこのような会は幾つかあり、読売新聞が協賛している泰正会杯のアマプロオープン戦には、慶応OBの上野君も参加しています。これはハンディ戦ですが、優勝するまでにはプロを数人負かさないといけない組み合わせであり、それはたいへんだと思いました。そのほか泰正会というプロアマ交流のアマ碁会があるそうです。

この日の研究会にはアマチュアは参加しておりません。対局のハンディキャップと手合い割り表を拝見できましたが、一言でいうと囲碁三田会の点数制と同じ仕組みであり、点数がより細かく制定されていました。



黄色いベストが羽根九段、その隣中野九段
手前列奥から佑紀、卞君

この日の対局の組み合わせは、泰正先生のご依頼で中野九段夫人が作っておられました。なお泰正先生の奥様は会が始まると、お孫さん（直樹先生の末子）のお世話のため外出されました。直樹先生はこの日は東京のお仕事があり、私が退席後に駆けつけるご予定のため、今回は残念ながらご挨拶しそこないました。

さて、研究会の前半を見学しての感想ですが、要点をまとめると以下のようになります。今回は碁についてはなにも教えていただいて来なかったのですが、研究会の空気を吸っただけで勉強になったというのが率直な感想です。

1. まず、泰正先生のお人柄に感激しました。囲碁を愛し、後輩を大切にするお気持ちがひしひしと伝わります。
2. この日は泰正先生は中野九段のご令嬢佑紀ちゃんと対局なされました。院生ほかプロを目指す方はプロに二子での挑戦です。佑紀ちゃんは善戦していました。途中、電話で先生が退席されましたが、席に戻られるとき、お相手に「失礼しました。」と丁寧にご挨拶されるお姿に感銘を受けました。相手の年齢は関係ないのですね。
3. 7局が同時進行でしたが、すべて樞盤でした。石も立派な石です。なお、使われない盤がまだ三面積みあげられているのが見えました。
4. 2時間で終わる碁は一局もなく、3時には全局中盤にさしかかっているところでした。アマチュアのように、2時間もたずに投了という碁はみかけられませんでした。
5. 中野九段のお相手は中国出身の元院生で卞聞愷さんと言います。二子で頑張っておられました。なお、中野九段のご子息の奨也君は現在、院生でガンバッテいるところですが、中学をお休みされ、若手の木和田プロとの対局でした。中学の先生もご了解のようです。
6. 二時間見学して感心したのですが、その間、無駄口が一言も発せられず、全員終始無言でした。プロでもぼやく棋士があると聞きますが、この会では、ぼやきは一語も聞かれませんでした。その真剣さが伝わってきます。気がついたのは相手が打った手を見て、ちょっと困った表情を見せることがあるという程度のことでした。
7. どの碁も一手一手時間をかけて着手しておられました。特に長考という場面は見ませんでしたが、アタリにツグような手でも、シッカリと考えてから打つという姿勢に感心しました。我々もそうあるべきだと教えられました。
8. 対局開始時に奥様が全員にお茶を出されました。そして、魔法瓶が用意されていて、途中で喉が渴いた人は自分でお茶を注ぎ足しに来ておられました。3時近くにお茶菓子がサービスされました。
9. そういえば、中野先生の車が羽根先生のところに着く直前、自転車の若者を一人追い越しました。そして、運転している奥様がそれが研究会に向かう若手プロと気づかれました。聞くと自転車で毎回こうして20分かけて来るということでした。雨でも自転車だそうです。プロはこうやって修行するものなのかと納得しました。



中野佑紀ちゃん



中野奨也君

10. おいとまになるとき、泰正先

生と中野先生とは脇からお別れのご挨拶をしましたが、泰正先生は対局中にもかかわらず、わざわざ席を立ちあがられ、玄関までお見送りくださりました。私のような一ファンにも礼を尽くすということに感心し、同時にたいへん恐縮いたしました。

11. 帰りに中野先生の奥様に名古屋駅まで車で送っていただき恐縮しました。そのときうかがったのですが、この研

究会では泰正先生が夕食を全員にご馳走するのだそうです。院生や外来の方で親御さんがそれにお気づきでない方もあるとお聞きし、泰正先生がいかに若手を大切にしているかがわかる気がしました。

- 1 2. 奨也君に私が初めてお目にかかったのは赤ちゃんのときですから、もう15年近く昔になります。その子がいま院生で、プロテストを受けているということに時間の流れを感じました。いまでは、お父様の碁についてもいろいろ意見をおっしゃるそうです。中野九段も嬉しいでしょうね。最近は二子でよく勝たれるそうです。「そうでないとプロになれない」とお母様が厳しくご指摘でした。
- 1 3. 新幹線のなかでも研究会で真剣に対局している若手の顔が目に浮かび、このうち何人かが将来プロとして活躍するのだろうかとか、どの人がトーナメントで活躍することになるのだろうかなどと考えてしまいました。研究会参加の若手は、東京でもなかなか得られない環境を得て、どう思っているのだろうかとも考えさせられました。彼らの将来の活躍を心から期待したいと思いました。